

令和5年度 かほく市立河北台中学校 学校評価中間報告書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	達成度	後期の方向性等
1 学力向上に向けた取組の充実	① 校内研究会の充実 ねらいを達成する授業後半の深い学びの充実 ★ ・「互いの考えをつなげる学び合い」「まとめ・振り返り」「適用・活用」による、確実なねらいの達成を目指す授業の共通実践 ・生徒指導の4つのポイントを重視したわかる授業の実践	研究主任 学習研究委員会	・研究主題及び副題の「つなぐ」を引き続き取り組むことで、より実態にあった研究の方向性が定まる。 ・生徒の実態に合った授業づくりにより、より邁進していかねばならない。	【努力指標】教職員9 生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問・指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 95%	・1学期は提案授業・要請訪問を行い、教科部会を中心に授業研究を行った。「つなげる」をキーワードに確実なねらいの達成に向け学校全体で取り組めた。今後も校内研究、学校訪問等を通して、授業改善に取り組んでいく。
				【満足度指標】生徒(授業2) 授業は分かりやすい	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 93%	
				【成果指標】生徒(授業4) 授業では、互いの考えを出し合い、話し合う活動を通じて、自分の考えが深まっている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 93%	
				【努力指標】教職員12 授業の中で、ICTの効果的な活用を工夫している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 90%	
② 1人1台端末の積極的・効果的な活用 ・教科における学びを深める活用 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化	学習指導部	・聞く姿勢など、基本的な学習態度が身に付きつつある。各教科において、積極的にICTを活用し、授業実践をしている。	【努力指標】教職員14 授業の中で生徒を見取り、具体的な支援や更に伸びる働きかけをしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 90%	・授業でのICTの効果的な活用を教員で共有しながら進めている。今後もタブレット端末やデジタル教科書等を活用した授業に取り組んでいく。 ・誰一人取り残さないために、授業での生徒の見取りを充実させていく。	
			【満足度指標】生徒3 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。(R7県目標値95%)	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 91%		
			【努力指標】教職員7 学力向上ロードマップや学力向上プラン、学校評価に基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 90%		
③ 学力調査の有効活用 ・学力向上ロードマップや学力向上プランに基づく全職員による組織的な指導の徹底と検証	教務 教科代表	・活用問題を利用した授業づくりが進められてきている。	【成果指標】生徒5 授業では、「自分と同じ(違う)」「なぜだろう」「その根拠は？」など考えながら聞いている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 83%	・学力向上プランの教員の意識を高めるため校内研修会での共通理解を図っていく。 ・授業では、自ら取り組もうとしている生徒が多くいることがうかがえる。	
			【努力指標】教職員11 授業の最後に「まとめ・振り返り」「適用・活用」を意識して行っている。(R5金沢教育事務所重点)	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 95%		
			【努力指標】教職員10 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 86%		
④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・総合的な学習の時間の指導の工夫	総合担当 学年会	・総合の時間を工夫し、キャリア教育の充実を図っていかねばならない。	【満足度指標】生徒10 将来の夢や目標を持っている	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	C 73%	・職場体験活動を実施することができ、職業観や実際の職場での体験を通して将来のことを考える機会になった。キャリア教育の視点で、自分の将来について見通しを持てるよう取り組んでいく。	

令和5年度 かほく市立河北台中学校 学校評価中間報告書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	達成度	後期の方向性等
2 自己指導能力の育成を目指す生徒指導	① 生徒指導の機能等を生かした、生徒一人一人の自己指導能力の育成 ・ 特別活動や帰りホーム等を活用した体制づくり ・ アンケート調査や教育相談を活用した生徒の悩み等に組織で対応 ・ 学級内の対人関係や集団活動・生活をする際のルールづくりや生徒相互に認め合うリレーションづくり	生徒指導部 学年主任	・ 朝学習や給食など、学年全体で指導する体制ができてきた。今後も学年全体で生徒を観ていく。 ・ 学校生活のあらゆる場面で生徒のよさを認め・褒め・励ましていく。	【成果指標】教職員23 学年担当全員で生徒を育てていく体制ができてきている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 90%	・ 授業や行事等で生徒の頑張りや成長を見取り、認める・褒める指導を継続していく。
				【努力指標】教職員28 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 90%	
				【満足度指標】生徒8 自分には、よいところがあると思う (R7県目標値80%)	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	B 78%	
	② 学校全体での、問題行動・不登校等に対する危機意識の向上 ・ いじめ・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応★ ・ SC及び関係機関と連携した教育相談体制の充実 i-checkを活用した組織的な対応	生徒指導部 生徒指導委員会	・ 不登校(傾向)生徒の割合が高い。教育相談体制の充実を図り、新たな不登校生徒を出さないよう取り組んでいく。 ・ サポートアンケートをはじめ、生徒観察を行っていく。	【満足度指標】生徒1 学校へ行くのは楽しい	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	C 88%	・ SCや教育相談員等との教育相談体制が機能化され生徒とのより良い関係づくりが構築されてきている。今後も普段の生徒との関わり方や不登校対策などの取組をより効果的に行う。また、各学年職員全員での面談も引き続き実施していく。 ・ 今後もいじめの未然防止・早期発見のため、保護者との連携を図りながら、担任だけでなく組織的な対応を行い、いじめ撲滅を推進していく。
【成果指標】生徒9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 99%					
【努力指標】教職員29 いじめや不登校傾向等がないか、生徒観察と理解に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B 95%					
【満足度指標】保護者7 学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C 65%					
③ 組織的な特別支援教育の推進 ★ ・ 学校全体で組織的計画的な支援を進めるための校内支援体制の充実 ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画等に基づく指導・支援の充実	生徒指導部 特支コ	・ 生徒理解研修をもとに配慮が必要な生徒をまとめ、職員会・校内研で確認し学校全体で共有する。	【満足度指標】保護者8 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C 75%	・ 生徒・保護者の話を傾聴し、誠実な対応をしていく。	
【努力指標】教職員14 特別な配慮が必要な生徒の共通理解を図り、個に応じた指導・支援に努めている	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	A 90%					
④ 基本的な生活習慣を高める指導の徹底 ・ 自然な挨拶、無言清掃、2分前ベル学等の行動 ・ 生徒会や学年プロ委の活動の活性化	生徒指導部 生徒会	・ 毎月の生活目標や学習目標を生徒会、各委員会、各学年の目標と連携していく。	【成果指標】生徒3 清掃活動に時間いっぱい取り組んでいる	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 97%	・ 清掃は週3日であるが、しっかりと活動ができるよう指導していく必要がある。	
			【成果指標】生徒6 学校や家庭・地域でしっかりと挨拶や会話ができていく	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 94%		

令和5年度 かほく市立河北台中学校 学校評価中間報告書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	達成度	後期の方向性等
3 信頼される学校づくり	① コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 ・ 外部人材の有効活用 ・ PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施	教務 学年主任 生徒会	・ 必要に応じて外部人材が有効に生かされている。今後も活用していく。	【成果指標】教職員15 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている 【満足度指標】生徒11 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 95%	・ 外部人材を活用した教育活動が生徒たちにも好評である。今後も有効活用していく。
	② 積極的な情報発信と学校公開 ・ ホームページや学校だより等の充実 ・ 校区内の小学校への出前授業や学習掲示等の情報発信 ・ 新聞等の投稿を活用した豊かな心の育成	教務 学年主任	・ 学年や学級の便りは原則コードモンでの配信をしていく。	【努力指標】教職員16 学校だよりやホームページ等で、教育活動や生徒の姿を発信している 【成果指標】保護者9 学校からの便りやHPで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 100%	・ 学校経営目標である「発信」について、各学年や分掌において様々な形ではあるが、取り組みを進めている
	③ 小中連携の推進 ・ 校区の小学校との授業参観 ・ 小中9年間を見通した共通取組の推進	教務 生徒会	・ 家庭学習週間を小中で共通して実施をし、家庭での学習習慣の定着を図っていく。	【努力指標】教職員 学校は小中連携を積極的に進めている 【成果指標】生徒8 自分で計画を立てて勉強している (R7県目標値75%)	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	後期 B 76%	・ 定期テストでの小中共通の学習習慣の取組を今年度も実施した。今後は、ICTの小中の実践交流、授業参観など取り組んでいく。
4 人材育成と教育の質を高める働き方改革の推進	① 若手ミドルリーダーの育成の計画的実践 ★ ・ 若手教員をメンターとした若手研修会の実施 ・ 校務分掌等をベテランと若手がバディを組んで進めていく	教頭 学校評価委員会	・ 若手のニーズに合わせて研修会を計画的に実施していく。	【成果指標】教職員6 若プロなど校内研修会が充実している 【成果指標】教職員34 学年や分掌等の取組について、教職員間の共通理解が図られている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B 90%	・ 日頃より、授業づくりや学級経営等について情報交換している様子が見えてくる。夏季休業中は、今日の課題について希望する内容を教職員から受ける研修を行った。
	② 業務の効率化の取組の推進 ・ 業務内容の見直しと、業務量の平準化 ・ ICTの効果的な活用	校長 教頭 教務	・ 校務分掌の役割分担の平準化から時間外勤務時間の減少だけでなく、業務の効率化を図る。 ・ 学校コーディネーターやスクールサポーターへ専属の役割を与えた。特に施設管理面や会計関係を担うこととした。	【成果指標】教職員35 定時退校時刻や定時退校日を意識して業務を進めるなど、働き方改革に努めている 【成果指標】教職員33 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C 71%	・ 年度途中であっても、効果的な働き方、働きやすい環境づくりに努めている。
					A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A 100%	